

① 「家畜衛生フォーラム 2017」の開催について

主催：日本家畜衛生学会

共催：(一財) 生物科学安全研究所

後援：農林水産省 (予定)

テーマ：「抗菌剤に頼らない新しい家畜疾病の制御法ーモデルとしての難治性・慢性疾病克服のための研究ー」

日時及び場所

日時：平成 29 年 12 月 15 日(金)13:30～17:30

場所：Meiji Seika ファルマ(株)本社講堂

東京都中央区京橋 2-4-16

(東京メトロ銀座線「京橋駅」下車徒歩 1 分、

JR「東京駅」下車徒歩 10 分)



フォーラムのねらい

薬剤(抗菌剤)耐性菌は医療及び獣医療現場で世界的に増加しているが、あらたな抗菌剤の開発は減少傾向にあり、薬剤耐性菌対策は国際的に大きな課題となっている。本フォーラムでは、まず日本における抗菌剤使用量の状況および削減のための対策についてお話しいただき、その後、抗菌剤に頼らない家畜の感染疾病の制御法に関する研究について紹介していただく。特に、抗菌剤が有効でない難治性・慢性疾病に関する研究が進んでおり、防除対策のために抗菌剤を使用してきた他の家畜疾病への応用や抗菌剤削減への利用の可能性について考える。

座長

杉浦勝明 先生(東京大学)、大石弘司 先生(動物医薬品検査所)

演題および講師

(13:00-13:10)

① 理事長挨拶および今回の企画について説明(13:00-13:10)

② イントロダクション

「日本およびヨーロッパにおける抗菌剤使用量の削減の状況および削減のための対策」

木島まゆみ 先生(動物医薬品検査所) (13:10-13:40)

③ 抗菌剤に代わる治療法の開発研究によるアプローチ

ー牛乳房炎の予防と治療への可能性 非特異性生理活性物質：ラクtoferrinー

河合一洋 先生(麻布大) (13:40-14:30)

④ 免疫研究からのアプローチ

ー牛の免疫応答を利用した難治性疾病の新規制御法開発ー

今内 覚 先生(北海道大学) (14:30-15:20)

休憩(15:20-15:35)

⑤免疫遺伝学研究によるアプローチ

ー主要組織適合抗原 MHC をマーカーとした新しい牛乳房炎および牛白血病制圧法についてー

間 陽子 先生（理研）（15:35-16:25）

⑥抗病性育種研究からのアプローチ

ー豚の抗病性育種によってマイコプラズマやサルモネラ等の病気にかからない豚をつくるー

鈴木啓一 先生（東北大学）（16:25-17:15）

⑦総合討論（7:15-17:30）

② 第 87 回大会の開催について

「家畜衛生フォーラム 2017」を開催する 12 月 15 日（金）の午前中に、フォーラムと同じ会場で第 87 回大会の開催を予定しています。詳細については改めてお知らせします。